

## 和歌山県立医科大学小児科 後期研修プログラム

### 【プログラムの目的】

小児科学全般に亘る知識、態度、判断力および診療技術の習得を目的とする。本プログラムは日本小児科学会の小児科専門医を目指す医師が研修すべき教育目標として作製された「小児科医の到達目標」に則しており、小児科専門医の取得に必要な関連領域（小児外科、脳神経外科、整形外科、耳鼻科、皮膚科、眼科、産婦人科、泌尿器科、歯科口腔外科、麻酔科、リハビリ科）の知識の習得も満たすことができ、3年間の研修を終了後は日本小児科学会専門医の受験資格を取得できる。

### 【当プログラムの特徴】

当研修施設は、大学病院であるとともに和歌山県のこども病院の機能も備えており、心臓外科、腹部外科、脳神経外科等の小児外科疾患の手術症例も豊富である。また、1次から3次の小児救急患者も随時受け入れており、平成19年10月からは和歌山小児救急センター（仮称）も開設予定で、小児のプライマリーケアから高度先端医療までのすべてを満たした研修をおこなうことが可能である。

【研修対象者】 小児科を専門として研修希望する大学卒業後3年目以降の医師

【プログラム指導者】 和歌山県立医科大学 小児科学教授 吉川徳茂

【研修期間】 3年間

### 【研修施設】

- ・和歌山県立医科大学小児科（30床）、総合周産期母子医療センター〔NICU〕（15床）  
指導責任者 吉川徳茂
- ・紀南病院小児科（田辺市）（一般病棟20床、NICU10床）  
指導責任者 南 孝臣 地域中核病院、NICU併設、二次救急指定

### 【プログラムの概要】

後期研修目標（次項）の習得を目指して、個々の初期研修で得られた知識、態度および診療技術に応じて適切に決定する。後期研修1、2年次は和歌山県立医科大学又は紀南病院で研修をおこなう。和歌山県立医科大学では、小児科病棟で8か月間各臨床グループ（血液、腎臓、心臓、神経）を各2か月でローテイトし、残りの4か月をNICUで研修することを基本とする。3年次は和歌山県立医科大学、紀南病院又はその他の関連施設から選択され、計3年間の臨床研修終了時に日本小児科学会専門医の受験資格を得る。また、後期研修終了時には大学院への進学も可能であり、その場合は博士論文を作成し博士課程を修了することを目標とする。

なお、日本小児科学会の認定する研修関連施設は以下にもあり、後期研修医の希望により施設を選択することをできる限りの範囲で認めている。

その他の関連施設	指導責任者	施設の特徴
・有田市立病院	紀平 省悟	地域中核病院
・泉大津市立病院	宮下 律子	地域中核病院、二次救急指定
・海南市民病院	重里 敏子	地域中核病院

・公立那賀病院	山家 宏宣	地域中核病院
・国保橋本市民病院	大石 興	地域中核病院
・国保日高総合病院	岩橋 誠司	地域中核病院、NICU 併設
・阪南市立病院	赤井 美津代	地域中核病院
・和歌山県立医科大学 紀北分院	飯塚 忠史	大学病院と連携 地域中核病院
・和歌山労災病院	宮代 英吉	大学病院と連携 NICU 併設、二次救急指定

## 【研修目標】

### (1) 一般目標

成長過程にある小児をその家族も含めて心身の両面からサポートすることを目標とする。そのために臨床医に必要とされる知識、態度および診療技術の習得を目指す。

小児科医療の対象となるのは、一般的な疾患だけでなく、先天異常、身体障害、心因反応、療育問題、予防接種、救急医療等多彩で、これらの疾患や障害に対して一般的な診療能力は勿論のこと、家族への指導能力、また小児の健康上の問題をトータルに把握するリーダーとして、地域医療との連携や他科との協力を円滑におこなえる能力を取得することを目標としている。

### (2) 行動目標

一般目標の習得を目指して、当プログラムでは以下の行動目標を設定し、後期研修期間中の習得を目指している。

#### 1) 基礎的事項

- ①職業的倫理的原則をよく理解し、基本的な診療をすることができる
- ②患者および家族とのコミュニケーションを十分にとり、適切な病歴を聴取し、社会的側面も理解した全人的な医療を思案できる
- ③小児の年齢による特性を理解した治療計画を立てることができる
- ④成長、発達、行動の異常をスクリーニングし、早期に適切な助言をおこなうことができる。
- ⑤パラメディカルスタッフや他科医師と協力しチーム医療を実践できる
- ⑥診療録、その他の医療記録が適切に作成できる
- ⑦乳幼児健診や予防接種といった予防医学の知識を習得する

#### 2) 専門的診療技術の習得

##### ①診療手技の習得

- ・採血、注射、血管確保、髄液検査、骨髄検査が施行できる
- ・吸入療法、口腔、鼻腔、気管吸引、簡単な創処置、導尿、胃管、イレウス管留置等の診療処置ができる
- ・年齢、成長、疾患に応じた輸液内容、投与速度の選択ができる
- ・小児の心肺蘇生に対処できる

##### ②検査手技の習得

- ・血液、尿、髄液検査で検体の採取、標本の作成、検鏡ができる
- ・生理検査（心電図、脳波、ABR 等）を実施し結果を解釈できる
- ・エコー検査（心臓、腹部）を実施し結果を解釈できる
- ・単純および造影 X 線検査、透視、CT、MRI、核医学検査の結果を解釈できる
- ・各種内分泌負荷テストを計画の上、実施し結果を解釈できる

③代表的疾患の診断、治療法を習得する

(特に以下の疾患で多数の症例があり、診療をおこなっている)

新生児疾患

新生児黄疸、低出生体重児、新生児仮死、特発性呼吸窮迫症候群、胎便吸引症候群、先天性心疾患、奇形症候群

感染症

呼吸器感染症、中枢感染症、尿路感染症、腸管感染症

アレルギー性疾患

気管支喘息、アトピー性皮膚炎、血管性紫斑病、若年性関節リウマチ

呼吸器疾患

肺炎、気管支炎、気管支喘息、細気管支炎、喉頭軟化症

消化器疾患

先天性胆道閉鎖症、肥厚性幽門狭窄症、腸回転異常

循環器疾患

先天性心疾患、川崎病、心筋症、不整脈

血液疾患、悪性腫瘍

特発性血小板減少性紫斑病、白血病、神経芽細胞腫、横紋筋肉腫、脳腫瘍、骨肉腫、ウイルス腫瘍

腎、泌尿器疾患

ネフローゼ症候群、IgA 腎症、急性糸球体腎炎、膀胱尿管逆流、水腎症

神経疾患

熱性痙攣、てんかん、脳炎脳症、低酸素脳症、二分脊椎

心身症

不登校、自律神経失調症、自閉症、摂食障害

【後期研修後の進路】

後期研修終了後は、希望する各研究グループに属して、臨床、研究面ともに専門性を高めることを目指していくのが一般的であるが、本人の希望に応じて国内外の研究施設への留学も積極的にすすめている。また、希望者には一般小児科勤務医としての就職の支援もおこなっている。